**トードス・オス・サントス跡**

この場所は1569年に建てられた長崎の最初の教会堂、トードス・オス・サントス （諸聖人）の跡地です。元商人のイエズス会士ルイス・デ・アルメイダは、キリシタン大名大村純忠 （1533–1587）の家臣、長崎甚左衛門純景からこの土地を与えられました。1556年に来日し、日本についての詳細な記述を残したイエズス会の司祭ガスパル・ヴィレラ神父は、ここに建っていたお寺を改築して教会を建てました。1590年代後半から、この場所にはセミナリヨとコレジヨ、そして金属活版印刷所が置かれました。ここには1602年から1605年にかけて修練院があり、1612年に有馬領がキリスト教を放棄した際は有馬のセミナリヨもここに移されました。

幕府が日本全国に禁教令を発してから6年後の1620年、トードス・オス・サントスは取り壊され、その跡地にはこの春徳寺という禅寺が建てられました。現在のお寺の建物は江戸時代（1603-1868）の後期に建立されたものですが、その井戸は教会が健在だった16世紀末から17世紀初期のものとされています。